

# 北っ子 敷島北小学校だより

令和7年12月19日 文責 校長 増坪広夫

## よいお年をお迎えください

運動会に音楽発表会、児童会選挙と学校行事が最も多い2学期が終わりました。今年度は20日間の冬休みとなります。冬休みがこの時期にあるのは、人が長い歴史の中で様々な文化を創造してきたことと深い関係があります。暮れや正月の「ならわし」や「しきたり」などがあります。学校では到底経験できないような大切なことがあるから子供たちを地域に返して冬休みとして生活させるのです。



新年は「あけましておめでとうございます」という言葉から始まります。古くから正月は歳神様を迎える行事であることから「暮れの忙しさと正月の楽しさ」を十分にこの冬休みで味わわせたいものです。ゲーム三昧ではなく「独楽回し」「羽根つき」「双六」「凧揚げ」百人一首」「福笑い」など、伝統の正月遊びに挑戦することも日本文化を受け継ぐ重要なことのような気がします。「1年の計は元旦にあり」といいますが、ぜひ来年度への新しいステップとして良い経験が積める冬休みであって欲しいと思います。敷島北小職員もしっかりと心と身体の充電をいたします。どのご家庭も、よい年末年始をお迎えください。

## おみくじから学ぶこと

お正月の行事の一つに初詣がありますが、その楽しみの一つが「おみくじ」です。ほとんどの人が「大吉」を望んでいると思いますが、以前、私は「凶」がでてかなりへこんだ経験があります。落ち込む私にお寺の関係者がこんな話をしてくれました。「おみくじは先の運勢を占うものではなく、神様が現時点での運勢を判断するもの」「たとえ凶が出ても、これ以上は悪いことはおこらない」「これからは運が上がる」「逆に大吉は、今は運気が一番高いが、これ以上は良くならない」「がんばらないと運は下がってしまう」と励ましてくれました。



本来、「凶」が出る割合は3割くらいだそうですが、あまり多いと参拝者が減るため場所によっては少なくしているところも多いようです。有名な浅草の浅草寺は、平安時代から続く京都の比叡山延暦寺と同じように比率を守っていて100本中30本が「凶」だそうです。

何事も「ものの見方」が大切で「前向きに生きる」ことが大事なよう気がします。

## 冬休みの過ごし方

保護者の仕事の関係で、冬休み中は子供だけで過ごす家庭もあるかと思いますが、「自転車の乗り方」や「友達との遊び」の内容について、よくよく話し合っておいてください。「口うるさい」と子供から思われても、ひるむことなく親の考えを「いい意味で押しつけて欲しい」と思います。命の大切さは何度も繰り返し語っても、決してすり減ってしまうようなものではないはずです。「交通事故に遭わない」「病気にかられない」「犯罪に巻き込まれない」「お年玉の使い方」など、子供たちには「社会のルール」や「生活の知恵」をしっかりと身につけて欲しいものです。



# 人生で必要な知恵は、すべて幼稚園の砂場で学んだ

これはアメリカの哲学者ロバート・フルガムという人の随筆の一部です。

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだろうか。

- 何でもみんなで分け合うこと。
- するをしないこと。
- 人をぶたないこと。
- 使ったものはかならずもとのところに戻すこと。
- ちらかしたら自分で後片付けをすること。
- 人のものに手を出さないこと。
- 誰かを傷つけたら、「ごめんなさい」と言うこと。
- 食事の前には手を洗うこと。
- トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。
- 焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいいこと。
- 釣り合いの取れた生活をすること
  - ・・・毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと。
- 毎日かならず昼寝をすること。
- おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。
- 不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。



人として知っていなくてはならないことは、このなかに何らかの形ですべて触れてあるような気がします。「人にしてほしいと思うことは、自分もまた人にたいしてそのようにしなさい」という「黄金律」と呼ばれる精神がそこにはあります。本日、あゆみをお配りしましたが「生活の記録」などを見て、実際に自分に当てはめてみるといろいろなことが見えてくるような気がします。

## もしもの時の備えを

青森県東方沖でM7.5の大きな地震がありました。多くの方が被災されていますが、被災に遭われた方々にお見舞い申し上げます。また県内各地でクマの目撃情報があるなど心配事がつきません。今年の冬の雪も気になるところです。数年前の大雪では、県内でも多くの学校が授業を打ち切り、臨時の集団下校や保護者への引き渡しによって子供たちを自宅に帰しています。あんしんメールが使えるという前提ですが、大きな災害や天候の急変が生じた際には学校からの連絡にご留意ください。



災害が起こった場合、状況によっては給食前に帰らなければならない場合や、学童クラブの利用も難しくなることも想定されます。いずれにしても保健所や甲斐市教育委員会の指示を仰ぐ中での対応となります。いろいろなケースが想定されるため、あらかじめ対応を示すことはできませんが、「〇〇かもしれない」を頭の片隅に置いておいていただければ幸いです。